



ーマイボトル利用促進プロジェクトー 実施報告書

2025年9月29日
株式会社サトー
坂上 充敏

マイボトル利用促進プログラムとは

オフィスでのマイボトル利用活動を通じて、オフィスから排出される飲料容器の削減と、参加者が日常生活の中で環境負荷を軽減することを習慣化し、行動変容を促すことを目的としたプログラムです。

洗浄サービス設置



マイボトル洗浄機の設置

ボトルをセットしたらボタン操作のみで洗浄が完結

“毎日清潔にボトルを使いたい”という人はもちろん、
“1日の中で違う種類の飲み物を楽しみたい”
という人にとって、気軽に洗える環境を用意する
ことが大切だと考えました。

供給サービス設置



カフェサービスとの連携

社内カフェでのマイボトル利用が可能に

ウォーターサーバーの設置

*以前から常設

いざマイボトルを使いだしても、
“ペットボトルを買って中身を移し替える…”では、
出るごみの量は変わりません。
ボトルへの飲料供給環境を整えることも必要です。

習慣づける 仕組みづくり



環境貢献度の可視化



経済的メリットの付与

習慣として毎日マイボトルを使っていくには、
それなりのモチベーションが求められます。
利用の意義、メリットの訴求も行いました。

参加者の意識・行動変容を目指す

次ページで詳細をご紹介します

習慣化の仕組みづくり (自動認識技術の活用)

地球温暖化、海洋汚染、生態系への影響と言われるが、自分は、何が出来ているのか？

個人の洗浄回数(≒環境貢献度※)をカウント

ボトルに
自動認識ラベルを貼り付け アプリで
個人のアカウントを登録



洗浄時、什器に入ったリーダーへ
マイボトルをかざすことで、ラベルを読み取り個体識別
→ 洗浄回数を個人のアカウントへ連携



成果の可視化策 ① ステータス付与

個人アプリ画面で、
環境貢献度※に応じたステータスを付与

- 個人のマイボトル利用回数をカウント
- 利用回数に応じたクーポンやトリビアを表示
→ 経済的メリットとしても機能

自分事化への仕掛け

成果の可視化策 ② イラスト変化

アプリ画面+サイネージで、
参加者マイボトルを洗浄するたびに
砂漠が森へと変化

- 100個で樹木が1年間に吸収するCO₂と
同等となりその分だけ木が生える
- CO₂削減量※2トン達成で森が完成し虹が出現



※ 「リユース可能な飲料容器およびマイカップ・マイボトルの使用に係る環境負荷分析について」(環境省)を基に、株式会社サトーにてCO₂排出量の算定を実施
専門家監修の元、本取組におけるマイボトル1回の利用によるCO₂削減量はプラカップ1個：80グラム(0.08kg)、ペットボトル1個：120グラム(0.12kg)として結果を表示

初年度成果と計画

移行推進事業対象・初年度成果

導入企業：2拠点

利用者数：695人

ペットボトル削減量：31,687個

CO₂削減量：3,802kg-CO₂

次年度実施計画

検討中企業への導入促進を図るため

企業横断BIの開発による機能向上を実施



実施報告 1 概要

実施企業：株式会社 関電工

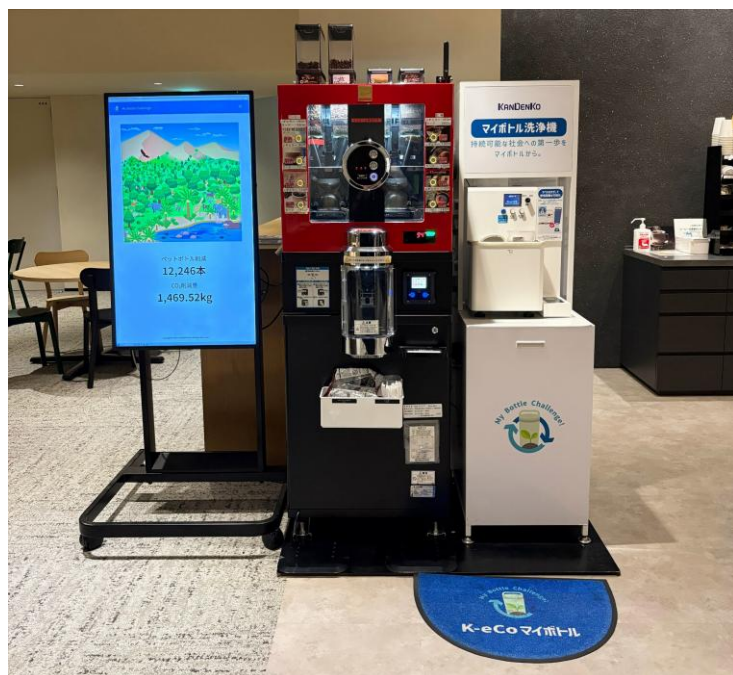
実施期間：2024年10月1日～

設置場所：関電工本社ビル(東京都港区芝浦四丁目8番33号)

利用者数：261人

ペットボトル削減量：11,634個

CO₂削減量：1,396kg-CO₂



「マイボトル利用促進プログラム」を関電工が利用開始

オフィスに導入しプラゴミ削減とCO₂排出量削減を推進

2024年11月18日

サトーホールディングス株式会社

サトーホールディングス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員 グループCEO 小沼 宏行、以下「サトーHD」）と象印マホービン株式会社（本社：大阪市北区、代表取締役 社長執行役員 市川 典男、以下「象印」）は、総合地球環境学研究所（所在地：京都府京都市、所長 山極 壽一、以下「地球研」）と、マイボトル利用定着に向けた共同研究として「マイボトル利用促進プロジェクト」を2024年4月より実施しています。

このたび、株式会社関電工（本社：東京都港区、社長 仲摩 俊男、以下「関電工」）がマイボトル利用促進プログラムを本社に導入したことをお知らせします。

マイボトル利用促進プロジェクトについて

世界的な社会課題として、プラスチックごみの削減推進が求められています。その一方、ペットボトルやカフェのプラスチックカップの使用は日常化しており、マイボトルは「持っているけど使わない」という方もまだまだ多い状況です。

実際にサトー本社においても、プラスチックカップを年間約25,000個利用し、マイボトル利用者は2%に留まっていた。これに着眼し、社会および社内の課題解決に向けて、マイボトル利用の定着のための仕組みを立案。サトーの社内に象印製のマイボトル洗浄機を設置し、従業員200名を対象に行動変容が起こるか実証実験を行っています。

マイボトルの利用を習慣化し、プラスチック廃棄物の発生抑止を目的として、サトーHD、象印、地球研によりマイボトルの利用定着のための研究開発を共同で進めています。

このプロジェクトで使用した仕組みを「マイボトル利用促進プログラム」として関電工のオフィスへ設置し、プラスチックごみ削減とCO₂削減に活用いただきます。

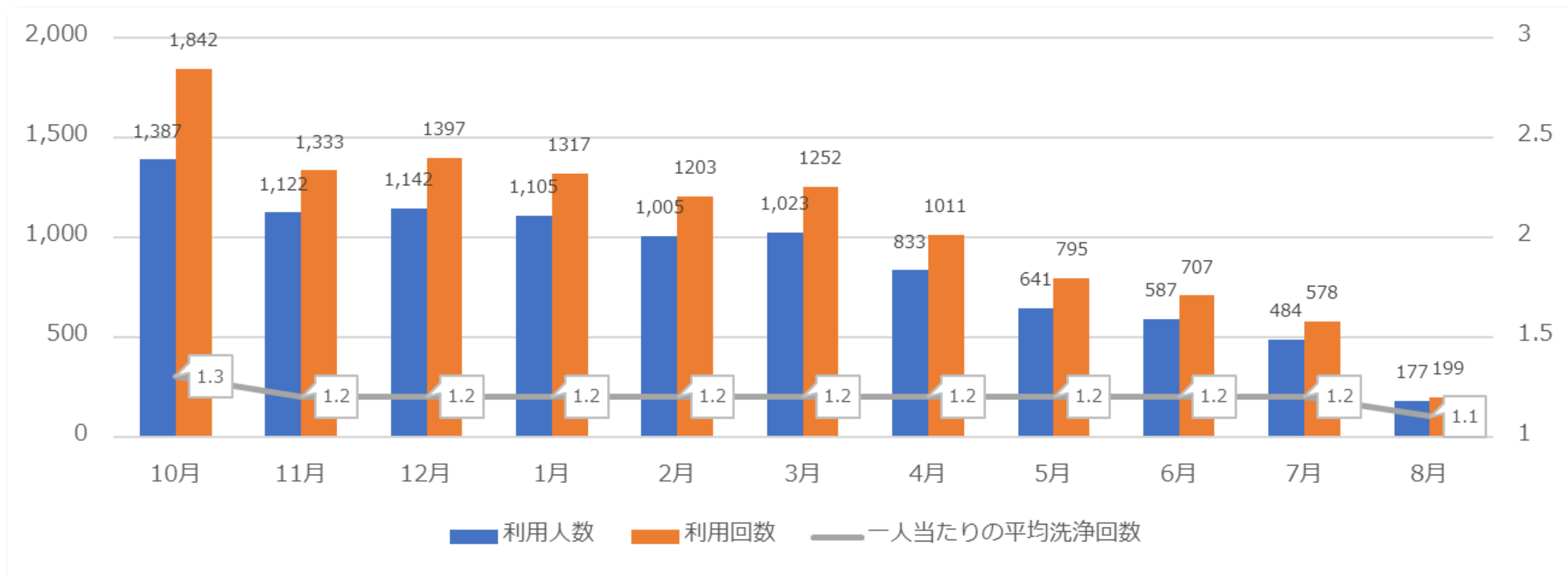
関電工の導入について

関電工の本社では、約1,000人が勤務しており、社内に設置されている自動販売機では年間約36万本のペットボトル飲料が購入されています。使用済ペットボトルは自動販売機設置会社に回収され、再生処理が行われていますが、一部は廃棄となっており、循環型社会の実現に向け取り組んでいる関電工としては、使用済ペットボトルを削減するため、マイボトル利用促進プロジェクトに関心をもちました。

マイボトル利用促進プロジェクトは進行中の実証実験でありながら、開始3か月で5,000個を超えるプラスチックカップ削減を実現し、一定の効果が見込めたことから、関電工ではいち早く関心を持ち、オフィスへの導入を検討。

健全で安全な地球環境を将来に残す取り組みの一環として、マイボトル利用促進プロジェクトの仕組みを社内に導入し、オフィス内のプラスチックゴミ削減とCO₂排出量削減を推進する運びとなりました。

実施報告 1 月別の利用人数・利用回数の推移



※ 利用人数は日別の1日1回以上利用した人の月別合算値です。

本スライドは、2024年10月から2025年8月までの月別利用人数および利用回数の推移を示しています。

2024年10月は1,387人によって1,842回の利用が行われ、1人あたりの平均利用回数は1.3回でした。

関電工さまでは、マイボトル用自動販売機によるホット飲料のみの提供のため、気温が高くなるにつれ、利用人数・利用回数はいずれも減少傾向にあるものの、平均利用回数は概ね1.2回／人前後で推移しており、一定の利用が継続して確認されています。

このことから、2年目の10月以降の利用が回復されることが見込まれます。

実施報告 2 概要

実施企業：株式会社 三菱UFJ銀行

三菱UFJ信託銀行 株式会社

三菱UFJモルガン・スタンレー証券 株式会社

実施期間：2025年5月7日～

設置場所：三菱UFJフィナンシャル・グループの本店ビル

利用者数：434人

ペットボトル削減量：20,053個

CO₂削減量：2,406kg-CO₂

2025年5月7日
株式会社 三菱UFJ銀行
三菱UFJ信託銀行株式会社
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社
株式会社 サトー
象印マホービン株式会社

株式会社サトー・象印マホービン株式会社による「マイボトル利用促進プログラム」導入
～MUFG銀行・信託・証券の社員によるCO₂削減への取り組み～

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表執行役社長 亀澤宏規、以下MUFG）の連結子会社3社（三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券）は、「社会課題の解決」に向けた取り組みの一環として、プラスチックカップやペットボトル利用削減によるCO₂排出量削減及び社員啓発を目的として、株式会社サトー（代表取締役社長執行役員 グループCEO 小沼 宏行、以下サトー）と象印マホービン株式会社（代表取締役社長執行役員 市川典男、以下象印）が提供する「マイボトル利用促進プログラム（以下、「プログラム」）」を導入します。

1. 導入の目的

MUFGは、2021年5月に2050年カーボンニュートラル宣言を公表し、この実現に向けてさまざまな取り組みを進めています。また、中期経営計画では「社会課題の解決」を3つの柱の一つに位置付け、サステナビリティ経営において「カーボンニュートラル社会の実現」、「自然資本・生物多様性の再生」、「循環型経済の促進」は、優先課題として位置付けられています。

今般、MUFGは、こうした「社会課題の解決」に社員自ら実践する機会を提供するべく、サトーが構築した「プログラム」の導入を決定しました。サトーによる「プログラム」を活用した、マイボトルの利用を促す取り組みを半年間実施することで、プラスチックカップやペットボトル利用削減によるCO₂排出量の削減をめざすとともに、社員の環境への関心・意識の醸成と行動変容を促進します。

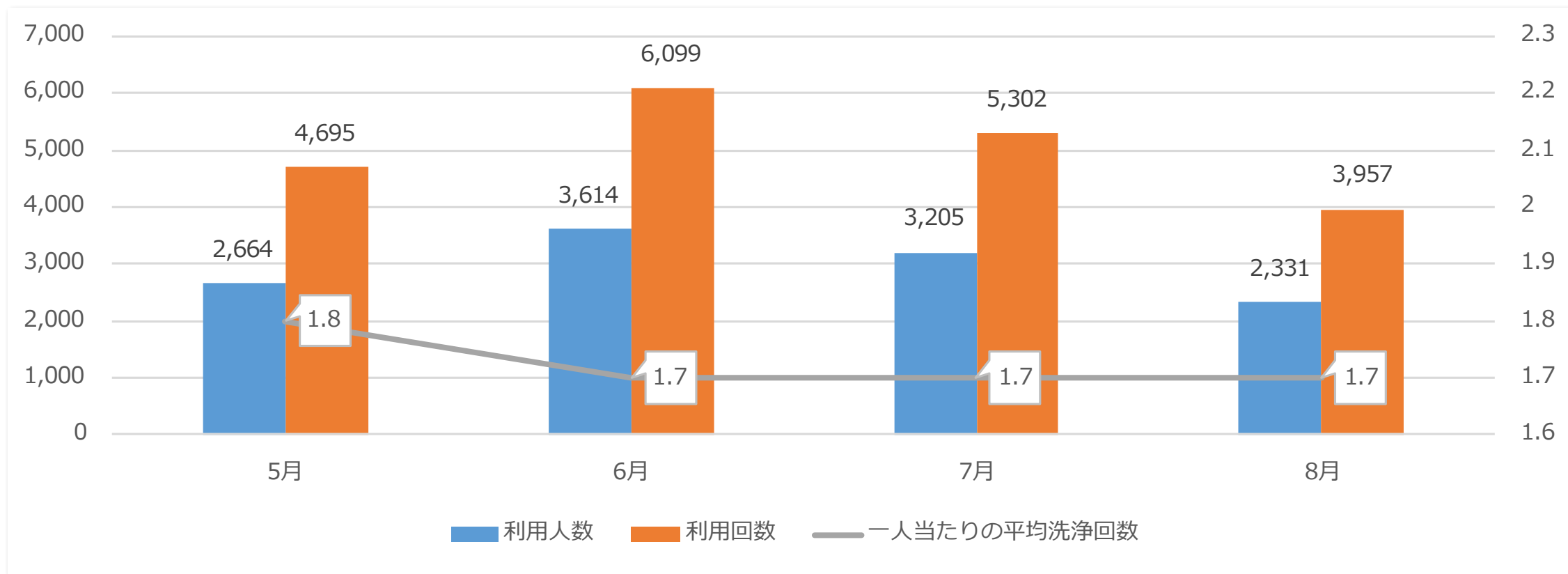
また、本取り組みの実施前・中・後において、その効果検証を目的に参加者へのアンケートや使用済みペットボトル量の変化やCO₂削減量などの定量分析を実施し、今後の「社会課題の解決」への貢献に向けた取り組みに活用していきます。

2. 取り組み概要

本件は、上記「1.」の目的のもと、三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券の3社が協働して取り組みます。本取り組みは、各社の本部系組織が集結するMUFGの本店ビルで実施し、同ビルに在籍する社員自らが、マイボトルの利用促進を通じた「社会課題の解決」を実践します。参加者は、公募によって選定された同ビルに勤務する各社社員（合計400名）で構成され、2025年5月から半年間、オフィスでのマイボトル利用を推進し、参加者合計で14,500本の使用済みペットボトルの削減と1,740kg-CO₂eのCO₂削減をめざします。



■ 実施報告 2 月別の利用人数・利用回数の推移



※ 利用人数は日別の1日1回以上利用した人の月別合算値です。

本スライドは、2025年5月から8月までの月別利用人数および利用回数の推移を示しています。

5月の導入以降、利用人数は2,000人以上、利用回数は4,000回前後を維持し、特に6月と7月は3,000人以上・5,000回以上と高い数値を示しました。

一人あたりの平均利用回数も1.7回で安定しており、継続的な利用状況が確認できます。